

2026年6月29日

各位

会社名 Chordia Therapeutics 株式会社  
代表者名 代表取締役 三宅 洋  
(コード番号：190A 東証グロース市場)  
問合せ先 IR マネジャー 吉良 亜実  
TEL : 03-6661-9543  
MAIL : [info@chorditherapeutics.com](mailto:info@chorditherapeutics.com)

## CDK12 阻害薬 CTX-439 の創製に関する論文掲載のお知らせ

Chordia Therapeutics 株式会社（本社：神奈川県藤沢市、代表取締役：三宅洋）は、当社が前臨床開発研究中の CDK12 阻害薬 CTX-439 の創製に関する研究成果を報告しました。本研究成果は、当社が主導し、武田薬品工業株式会社と Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社の研究チームとの連携のもと創出されたものです。このたび、本成果をまとめた論文が 2026 年 6 月 23 日に *ACS Medicinal Chemistry Letters* 誌でオンライン掲載されましたのでお知らせします。

### 論文概要

CTX-439 は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼのサイクリン依存性キナーゼ（CDK）ファミリーに属し、mRNA 転写の伸長と終結反応を制御する CDK12 と CDK13 に対して、高い選択性を有する経口投与可能な低分子キナーゼ阻害薬です。CTX-439 は、がん細胞の生存に不可欠な mRNA の生成過程を阻害し、細胞増殖に必要なタンパク質の産生を抑制することで、がん細胞に過剰なストレスを与えて死滅させる新しい作用機序を持つ薬剤です。

今回の論文では、CTX-439 の創製に至る創薬化学研究の成果を報告しました。本研究は、独自骨格を有するリード化合物を出発点とし、X 線結晶構造解析を活用した構造ベースの創薬と戦略的な化合物最適化を通じて達成されたものです。

創出された CTX-439 は、CDK12 および CDK13 に対して強力な阻害活性と高い選択性を有する低分子化合物です。がん細胞において、CDK12/13 の活性阻害に伴う転写の抑制作用が確認されるとともに、細胞増殖抑制効果が示されました。CTX-439 は、CDK12/13 を標的とする新たながん治療薬候補として位置づけられ、本成果は、がん細胞における転写制御を標的とした次世代がん治療薬開発を目指す当社の創薬研究の進捗を示すものです。

## 論文情報

Discovery of CTX-439: A Potent and Selective CDK12 Inhibitor as a Prospective Anti-Cancer Drug  
*ACS Medicinal Chemistry Letters*, Jun. 23, 2026

URL : <https://doi.org/10.1021/acsmedchemlett.6c00138>

## 投稿先の学術誌について

*ACS Medicinal Chemistry Letters* はアメリカ化学会 (ACS) が発行する革新的な創薬研究や医薬化学の最新成果を迅速に発信する国際的な学術誌です。低分子化合物や標的分子の設計、作用機序の解明、構造最適化、薬物動態など、医薬品開発に直結する研究成果を幅広くカバーしています。

## 用語集

用語	解説
キナーゼ	基質となるタンパク質にリン酸基を付与することで、その機能のオン/オフを制御するタンパク質の総称
CDK (サイクリン依存性キナーゼ)	細胞の増殖や遺伝子発現の制御に関わるキナーゼの一群で、サイクリンと呼ばれるタンパク質と結合して機能する
RNA	<u>R</u> <u>i</u> <u>b</u> <u>o</u> <u>n</u> <u>u</u> <u>c</u> <u>l</u> <u>e</u> <u>i</u> <u>c</u> <u>a</u> <u>c</u> <u>i</u> <u>d</u> リボ核酸の略で、遺伝子である DNA からタンパク質を生成するために必要な物質。ゲノム DNA から転写されたメッセンジャーRNA (mRNA)、タンパク質合成時に利用されるトランスファーRNA (tRNA) などがある
mRNA 転写	DNA に書かれた遺伝情報を読み取り、mRNA として書き出す仕組みであり、この mRNA をもとに細胞がタンパク質をつくるための、生命活動の出発点となる重要なプロセス
X 線結晶構造解析	分子やタンパク質がどのような形をしているか、さらにどのような相互作用をしているかを調べること
化合物最適化	薬の設計図である化学構造を少しずつ改良して、効き目を強めたり、副作用を減らしたり、飲みやすくしたりすること



## **Chordia Therapeutics 株式会社について**

当社は、臨床開発品を擁するがん領域専門の研究開発型バイオベンチャーとして、神奈川県藤沢市に本社を置き活動しています。当社のリードパイプラインである CLK 阻害薬 rogocekib (CTX-712) は、米国での第 1/2 相試験を進行中です。rogocekib は、がんの脆弱性をターゲットにしており、有望な治療薬としての可能性が期待されています。また、当社は、リードパイプラインの rogocekib、MALT1 阻害薬 ocipumaltib (CTX-177) に加え、CDK12 阻害薬 CTX-439、GCN2 阻害薬など、複数のパイプラインの研究開発に取り組んでいます。

詳細は、当社ウェブサイト (<https://www.chorditherapeutics.com/>) をご覧ください。